

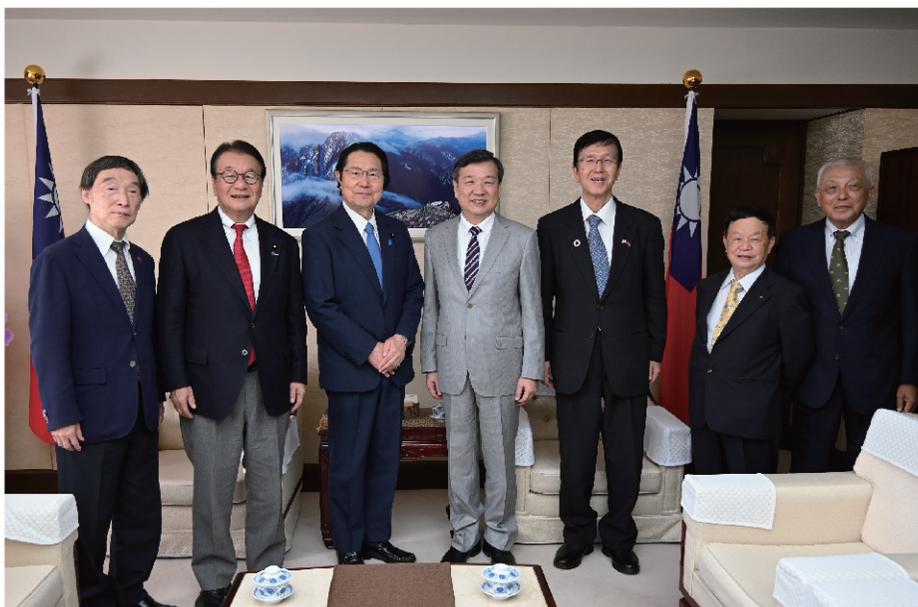
令和6年

季刊

秋季号

Vol.91

亞東



協会役員 李逸洋閣下を着任表敬訪問(令和6年9月13日)



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七-四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和六年 秋季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷 二頁

目次・協会役員名簿 三頁

頼清徳総統 国慶節スピーチ 四頁

李大使の空港で談話全文 九頁

益山 茂 理事のご逝去を悼んで 十一頁

日本台湾親善協会 副会長 並木 正芳

御挨拶

チャイナエアライン

日本支社長 李 宜洲 (ソロモン・リー) 十三頁

日本台湾親善協会 理事 平岩 敏和 十五頁

日本台湾親善協会 監事 吉原 徹 十六頁

『学生を通じた日台親善』

学校法人日本女子大学 事務局長 岡本 宏一 十七頁

事務局だより・新入会員のご紹介 十九頁

令和6年6月20日 現在

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順三	張岩田	建国善信	張	碧華				
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
理事	25名								
	衛藤征士郎	張藤山	建国康里	張益山	碧華茂	山本明石	順三亮	並木田	正芳郎
	赤松城	榎加藤	有光淑	富田富	家彰之	笹岡石	散正幸	森田見	康善哲
	多柴田	李ハ口ル	平岩	敏	和	熊沢岡	宏一	山	正
監事	2名	鈴木 慶一							
事務局		赤松 則宏							

一般社団法人 日本台湾親善協会

頼清徳総統 国慶節スピーチ

二〇二四年一〇月一〇日

台湾を団結させ、共に夢を実現しよう



祝賀大会の議長である韓国瑜院長、蕭美琴副総統、卓榮泰院長、ツバルのフェレティ・テオ総理閣下ご夫妻、国交樹立国と友好国の祝賀団団長の皆様、国内外からお越しのご来賓の皆様、会場およびテレビやライブ配信をご覧の国民同胞の皆様、こんにちは！

今日、私たちは一堂に会し、中華民国の誕生日を祝います。一緒に今日の美しい台湾のために喝采を送り、より良い明日の台湾を迎えましょう。

一一三年前、理想に満

ちた志士たちが革命を起こし、帝政を打倒しました。

彼らの夢は人民の、人民による、人民のための民主主義共和国を建設することでした。彼らの理想は自由、平等、博愛の国を建設することでした。

しかしながら、民主主義の夢はかつて戦火に呑み込まれ、自由への理想は長年にわたり権威統治によって踏みにじられてきました。

しかし、私たちが七五年前の古寧頭（こねいとう）戦役、六六年前の八二三砲戦を忘れることは永遠にありません。私たちは誰が先で誰があとから来たのか、誰がどのエスニックグループなのかなど、誰彼の区別なく、ともに台湾、澎湖、金門、馬祖を守り、中華民国を守り抜いてきました。

私たちは永遠に四五年前の「美麗島事件」と、その前後に発生した一連の民主化運動のことを忘れることはありません。同じ民主主義の夢と自由の理想を抱いた人々が次々と犠牲になり、命をかけて民主主義への扉を開きました。人民が国の主人になるという一〇〇年来の願望が、ついに実現したのです。

国民同胞の皆さん、中華民国はかつて国際社会から追放されました。しかし、台湾の人々は一度も自分を追放したことはありません。

台湾の人々はこの土地で勤勉に働きながら、私たちの友人が自然災害に遭遇したり、一〇〇年に一度という疫病に直面したときは、ためらわずに援助の手を差し伸べてきました。

「Taiwan Can Help!」、これはスローガンではなく、平和を愛し、他人と仲良くするという台湾人の行動なのです！

過去、台湾の人々は「スーツケース一つで世界中をねり歩く」ことで、台湾の経済成長を切り開きました。現在、台湾のテクノロジーはチップ一つで全世界を動かし、世界の繁栄と発展の原動力となっています。

台湾の人々は多様でひるむことがありません。私たちのニンフィアはドラアグ・クイーンの頂点に立ちました。台湾の人々は勇敢で恐れを知りません。台湾の娘リン・ユートインはボクシングの世界女王になりました。

一七歳の蔡昀融は、その器用な両手を使って、木工で世界一の栄誉を勝ち取りました。二〇歳の陳思源は父親の技術を受け継ぎ、冷凍空調技術で世界一になりました。新世代の「メイド・イン・台湾」の若者が再び「台湾製造、メイド・イン・台湾」の看板に磨きをかけています。

私は、国民同胞の皆さんが何世代にもわたり同じ船に乗り、風雨の中で同行してくれることに感謝します。現在、中華民国はすでに台湾、澎湖、金門、馬祖に根を下ろしており、中華人民共和国とは互いに隷属していません。民主主義と自由はこの土地において成長し、強くなりました。中華人民共和国に台湾を代表する権利はありません。二千三百万の台湾の人々は、その影響力を全世界に広げ、未来に向かって歩いています。

国民同胞の皆さん、私たちはいくどとなく困難を乗り越えて

きましたが、中華民国の存在は始終揺らぐことがなく、台湾の人々の意思も始終変わりませんでした。

私たちはお互いの立場が異なることを十分に承知していますが、常にお互いを容認してきました。私たちはお互いの意見が異なることを十分に承知していますが、常に手と手を携えて前進してきました。そうすることによって、中華民国台湾の現在のありさまを形成してきたのです。

総統としての私の使命は、国の存続と発展を守り、二千三百万の台湾の人々を團結させることです。しかも、国家の主権が侵犯または併呑されないようにしなければなりません。

私の使命はまた、すべての国民の生命と財産の安全を守り、「平和のための四大支柱のアクションプラン」をしつかりと実行することです。国防を強化し、民主主義諸国と肩を並べ、共同で抑止力を発揮し、実力によって平和を確保して、子々孫々に至るまで平和で安心して暮らせるようにします。

私の使命は、二千三百万の台湾の人々の生活と生計を守り、積極的に経済を発展させ、社会保障への投資を拡大することです。しかも、経済発展の成果をすべての国民が享受できるようにします。

しかしながら、国家が直面する問題は絶えません。世界的な課題はまさに、台湾の課題でもあります。地球規模の気候変動は世界の持続可能な発展に衝撃を与えています。突発的な感染症は全人類の健康と生命に衝撃を与えています。権威主義の拡

大はルールに基づいた国際秩序に挑戦し、私たちが苦勞の末にようやく手に入れた民主的で自由なライフスタイルを脅かしています。

そのため、私は総統府において「国家気候変動対策委員会」、「健康台湾推進委員会」、及び「社会全体の防衛強靱性委員会」を立ち上げました。これら三つの委員会は相互に関連しており、いずれも「国家の強靱化」と切っても切れない関係にあります。より強靱な台湾を構築するため、積極的にさまざまな問題に対処し、台湾と国際社会との連帯を深めていきます。

私たちは極端な気候リスクに対処するため、台湾の適応メカニズムを強化します。引き続き「第二次エネルギー転換」を推進し、電力の安定供給を確保します。また、多様なグリーンエネルギー、エネルギー利用の効率化、先進的なエネルギー貯蔵技術の開発を通じて、「二〇五〇年ネットゼロ移行」という世界規模の目標を達成できるよう着実に邁進していきます。

私たちは国際的に脅威となる感染症を効果的に予防し、国民の平均余命を延ばし、不健康な年数を減らし、医療の平等性を実現します。国民を健康にし、国家をより強くし、世界が台湾を受け入れるようにします。

私たちはまた、国全体の「国防」、「民生」、「防災」、「民主主義」の四大分野における強靱性を高めます。台湾の人々が団結すればするほど国家は安定します。台湾社会の準備を整えば整うほど、国家はより安全になり、台湾海峡もより平和で安定し

たものになるでしょう。

台湾には、台湾海峡の平和と安定を維持し、世界の安全と繁栄を達成する決意があります。また、中国と協力して気候変動への対処、感染症の予防、及び地域の安全の維持、平和と共栄の追求に取り組み、兩岸の人々のために幸福をもたらしたいと願っています。

長年にわたり、世界各国が中国を支援し、中国に投資し、中国の「世界貿易機関（WTO）」への加盟に協力し、そして中国の経済発展と国力の向上を促進してきたことは、中国が世界各国と一緒に世界に貢献し、対内的には国民の暮らしを重視し、対外的には平和を守るよう期待したからです。

現在、国際的な緊張が高まり、毎日無数の罪のない人々が戦争で死傷しています。私たちは、中国が国際社会の期待に応え、その影響力を発揮し、世界の国々と協力してロシア・ウクライナ戦争や中東紛争を終わらせることを期待しています。また、台湾とともに国際的な責任を担い、地域と世界の平和、安全、繁栄に貢献するよう望んでいます！

国際情勢がますます混乱する時代において、台湾はより落ち着いて、自信を持ち、強くなることで、地域の平和、安定、繁栄の力となるでしょう。

私は、より強い民主主義の台湾は二千三百万の人々の理想であるだけでなく、国際社会の期待でもあると信じています。

私たちは今後も台湾を引き続き成長させ、分野をまたいだ経

済発展を推進してまいります。

台湾の経済力は奇跡ではなく、全国民による努力の賜物です。私たちは「革新的な経済」、「均衡のとれた台湾」、「包摂的な成長」を目指し、世界の潮流の変化を捉え、世界の民主的なサプライチェーンにおける重要な地位を維持し続けなければなりません。

今後は「五十二」産業イノベーションと「六大核心戦略産業」に加え、台湾の半導体、人工知能（AI）、軍事産業、サイバーセキュリティ、及び次世代通信の「五大信頼産業」をさらに発展させ、世界市場を開拓します。私たちは同時に、中小企業や零細企業の構造転換と発展を促進し、全世界にマーケティングでできるよう取り組んでまいります。

国民同胞の皆さん、私たちは今後も地域をまたいだ政策でフランスのとれた台湾を実現します！

来年度の中央政府総予算は、地方自治体への一般的な補助金と一般交付税が八九五億元の大幅増額となり、総額七二四一億元と過去最高を更新します。それと同時に、治水予算が今年度と比べて一五九億元増加し、総額五五一億元に達します。これにより、全国の各地方自治体を支援して極端な気候に対処してまいります。

また、私たちは全国の道路網の安全性の向上を加速させ、「人間本位」の交通環境を整備します。

同時に、私たちはMRTのネットワークを改善し、台北市、

新北市、基隆市、桃園市の首都生活圏をつなぎます。また「桃園・新竹・苗栗ビッグシリコンバレー推進計画」を実行して南北台湾を結ぶ中部テクノロジークラスタを構築し、「スマートテクノロジークレートサザン産業エコシステム推進計画」をスタートさせます。私たちはまた、台湾東部の交通ネットワークの安全性強化も加速し、東部出身の人々がより安全に帰郷できるように交通建設に取り組んでいきます。さらに、離島地域のインフラを強化することで、生活の質と観光のキャパシティを向上させてまいります。

国民同胞の皆さん、私たちは世代をまたいだ政策で皆さまへのケアを実現します！

若いお父さん、おかあさん。私たちは「〇歳から六歳までの子どもに対する国家支援政策第二弾」を引き続き推進するとともに、さらに一歩進んで、託児料の補助を増額し、幼稚園のサービスの質を向上させます。子どもたちは国の未来であり、政府には子どもたちの世話を支援する責任があります。

若い学生の皆さん。私たちは高校や専門高校の授業料の無償化を継続するとともに、私立大学の学生に対する授業料の補助も継続してまいります。さらに一歩進んで、私たちは「若者一〇〇億海外での夢実現の基金」を設立しました。政府には若者の夢の実現を支援する責任があります。

青壮年の友人の皆さん。来年は最低賃金を再び引き上げるほか、家賃の補助世帯数も増やします。私たちは社会投資を拡大

し、暮らし、仕事、住居、健康、高齢者や子どもたちへの支援などを充実させます。政府には、青壮年の家庭の負担を軽減させる責任があります。

全国のおじいちゃん、おばあちゃん。来年台湾は「超高齢社会」に突入します。私たちは「長期介護政策第三弾」を早期に開始し、慢性疾患の予防と治療のための「八八八計画」を段階的に実施してまいります。

また、私たちは「百億がん治療の新薬基金」を設立し、「健康台湾の深化計画」を推進し、社会のセフティーネットを強化し、弱小団体へのケアを強化します。青壮年世代などあらゆる年齢層の方々に対するメンタルヘルスケアを実施し、全国民、全年齢、全社会へのケアを具体的に実践してまいります。

私は、誰もが住宅価格の高騰が生活に与えるプレッシャーを最も懸念し、詐欺の横行を最も嫌っていることをよく知っています。

私は、国民の皆さんに約束します。政権チームはこれらの問題を回避しません。たとえ特定の団体を敵に回すことになるとしても、断固として取り組んでまいります。

私たちは、「詐欺の摘発」により一層力を入れ、「投機的な不動産購入を抑止する」政策の効率を高めてまいります。私たちは賃貸者へのケアを拡大し、住み替えを希望する人々のニーズのバランスを取ります。「居住者の正義」を実現させる道を、私たちは国民の皆さんと共に歩み続けます！

本日は、各政党の党首の皆様にお越しいただきました。皆さまのご参列に感謝します。これは、台湾の多元な民主主義の価値と意義を表しています。

国家は団結しなければならず、社会は安定しなければなりません。最近、韓国瑜立法院長と卓榮泰行政院長が与野党の連携を開始したことに感謝します。これにより政府と野党間の協議が促進されることでしょう。

民主主義国家の政党は、対内的には競争を通じて国家の進歩を促進し、対外的には一致団結して国益を追求します。どの政党の出身であっても、どのような政治的な立場を主張していても、国家の利益は必ず政党の利益より優先されなければなりません。政党の利益が国民の利益より優先されることは決してありません。

なぜならこれは、中華民国を建国し、自らの命と血を流した烈士たちが掲げた精神であり、権威主義を打破し、自らの命を犠牲にして民主主義を追求した先人たちが世代を超えて私たちにもたらした啓示だからです。

だからこそ、私たちは今日、党派を問わず、誰彼問わず、ここに集まっているのです。

私たちは、自分の国の名前をどのように呼ぼうと、中華民国、或いは台湾、それとも中華民国台湾であろうと、誰もが共通の信念を持たなければなりません。

国家の主権を守るといふ私たちの決意は変わりません。

台湾海峡の平和と安定の現状を維持するための私たちの努力は変わりません。

兩岸が対等且つ尊厳をもち、健全で秩序ある対話と交流を希望するという私たちの約束は変わりません。

子々孫々に至るまで、民主的で自由なライフスタイルを守るという私たちのこだわりは変わりません。

私は、これは台湾に住む二千万の人々の共通の夢であり、台湾社会、国際社会が共有する理想でもあると信じています。

台湾の人々が粘り強くなればなるほど、世界の民主主義はより強靱になるでしょう！

台湾の人々が強靱になればなるほど、世界の民主主義はより永続的なものとなるでしょう！

中華民國、頑張れ！台湾、頑張れ！誰彼問わず、一緒に頑張らしましょう！

ありがとうございました。



李大使の空港で談話全文

私は李逸洋と申します。この度、台湾の駐日代表に就任し、大変光栄に思っております。まず初めに、皆様に心からのご挨拶と感謝の意を表したいと思っております。

私はこれまで一〇回以上日本を訪れたことがあります。そのほとんどは観光であり、気軽な気持ちでした。しかし今回は全く異なります。賴清徳総統は一貫して台日友好関係の発展を非常に重視しており、総統からこの大任を引き受け、責任の重さを深く感じ、常に身の引き締まる思いです。今後、私も全力を尽くして、台日関係の推進に頑張ります。台湾と日本は長い間、非常に深い友情を築いてきました。駐日代表処が民間の調査会社に委託して行った日本の国民に対する調査と日本台湾交流協会が委託して行った台湾の国民に対する調査の結果、互いの好感度がどちらも七七%であることが



わかりました。両国民の約八割はお互い相手に対して好感度を
持っているのです。

観光客の数に関して、人口比率で見ますと、台湾は日本への
観光客数で一位となっており、台湾の人口二三〇〇万人あまり
の中で年間約六〇〇万人が日本を訪れています。また、日本は
台湾の第三位の貿易相手国でもあります。

このような密接な関係の中、過去を振り返ってみますと、地
震や台風、水害、大きな疫病などに直面した際には、台湾と日
本は常に苦楽を共にし、積極的に助け合ってきました。このよ
うな深い友情は国際社会においても非常に貴重です。今年台湾
の花蓮地震の際には、日本政府と国民の皆様から迅速かつ、ご
厚情あふれるお見舞いの言葉と義援金をいただき、台湾の国民
は深く感謝しています。今日この場をお借りし、改めて日本政
府と国民の皆様には感謝を申し上げます。

現在、台日両国は経済、半導体、貿易、観光、文化、社会な
ど多くの分野での交流が、史上最高のレベルに達していると言
えます。特に両国の国会議員や地方間の緊密な交流は非常に重
要です。頼清徳総統は、台湾と日本が強固なパートナーである
ことを強調し、両国が協力し台日友好関係の新たな局面を切り
開くことを期待し、さらに、民主主義国家のパートナーと共に

「民主主義の保護傘」を広げ、世界の民主主義、平和、繁栄を
共に促進していくことを表明しました。

将来私は頼総統の理念に基づき、日本と共に「民主主義の保
護傘」を広げ、民主主義と自由の価値観を守ります。地域の平
和と安定を維持しながら、台湾と日本の各分野の発展を促進す
ることに努力します。

現在、台日関係は数
十年來最良の時期にあ
ります。この良好な基
礎の上でさらに前進す
るために、今後とも皆
様のご協力、ご支持を
いただけますようお願い
申し上げます。

ありがとうございます。





益山 茂 理事のご逝去を悼んで

日本台湾親善協会 副会長 並 木 正 芳



一般社団法人日本台湾親善協会理事・あざみ野ローンテニスクラブ代表取締役社長の益山茂さんが、医療関係者やご家族の心のこもった手厚い看護を受けられながら肺ガンという病魔と闘っておられま

したが、去る九月二日多くの方に惜しまれつつ七十八歳の生涯を閉じられました。

葬儀は、九月六日近親者で執り行われ、十月七日には当協会名誉会長玉澤徳一郎先生もご参席のもと、二子玉川エクセルホテル東急において「お別れ会」が盛大かつしめやかに行われました。今はただ在りし日のお姿を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

私が益山さんと親しくさせていただくようになったのは、元会長の玉澤先生が会長を退任されるのに際して益山さんと私の二人をお呼びになり「亜東親善協会（当時）」は、一九四九年八月に東アジアの人々の平和と幸福及びそれを基調とする国際関

係の樹立を希求する日華人が友情と信頼の上に創立した華南俱樂部が発祥であり、太平洋戦争後の混乱期にあった日本が華人の皆様は大いに助けていただいたことを忘れてはならないし、政治的立場を越えて脈々と流れる台湾の人々との兄弟愛とも言うべき同志愛により、民主主義と自由経済を信条とする日本と台湾の友好交流を発展させて日台関係強化を図り、広くアジアの平和と繁栄に貢献するための努力を続けて行くように、今後の協会を頼む」とのご薫陶をいただいたことがきっかけでした。

益山さんは社長業でもあられ、その人望により神奈川県テニス事業協会の会長も務められた方でしたが、決して偉ぶらず、あの東北地方と関東地方の沿岸部に未曾有の被害をもたらした二〇一一年三月十一日の東日本大震災に際して台湾がいち



早く緊急救助隊を組織し直ちに被災地に入り献身的な救助活動にあたられ、二百二十億円を超える世界最高額の義損金や多品目にわたる支援物資を提供していただいた御礼のために翌年六月、「台湾の人々からの熱い友情と励ましを私たち日本国民は決して忘れない」との思いを込め、玉澤先生を団長とする『ありがとう台湾』訪問団を組織し高雄市・台北市を訪れた際にも、献身的に汗を流して団員のお世話をしてくださいました。

また被災地の宮城県女川町の支援のために今日までボランティア活動を続けておられました。

正義感強い熱血漢

協会のためにも欠くべからざる人であられた益山さんを失った悲しみは深いですが、ご遺志を体して協会員一同力を合わせて参りますことをお誓い申し上げます。追悼の言葉と致します。



着任御挨拶

チャイナエアライン

日本支社長 李 宜洲 (ソロモン・リー)

皆さま、こんにちは。

私は このたびチャイナエアライン 日本支社長を拝命いたしました、李宜洲 (Solomon, Lee) と申しま

す。本年六月より日本に着任いたしました。日本に赴任するまでの三年間は、台湾地区支社長として勤務してまいりましたが、日本に赴任するのは今回が初めてとなります。とはいえ、こ

れまでプライベートで二五回以上日本を訪れており、日本は私自身にとっても特別な場所であり、日本は当社にとりましても重要な市場であり、また私にとりまして大変意義深い国です。これから日本で皆様と共に業務に携わることができるとを、心から光榮に存じます。

チャイナエアラインでは、台日間の円滑な交通網を構築する

ために、日本全国と台湾への定期旅客便は、一一の都市を通じて日本最多の週一五〇便を提供しております。首都圏である東京から台湾への運航便は週に四八便で、これには成田から台北桃園 (NRT-TPE)、羽田から台北松山 (HND-TSA)、そして成田から台湾南部の主要都市である高雄 (NRT-KHH) への便が含まれております。日本各地から台湾へのアクセスを一層便利に、台日間を結ぶ重要な役割を全うし、今後もお客様に快適で迅速なサービスを提供できるよう努めてまいります。

定期便だけではなく、春の桜シーズン、秋の紅葉シーズン、そして冬のスキーシーズンのように、季節にあわせた期間限定チャーター便も提供しております。非日常的な体験を台湾のお客様に思う存分感じていただけるよう、観光シーズンにおけるお客様のニーズに対応し、日本の魅力を発信しております。桜の花見や紅葉狩り、冬のスキー旅行を楽しむために、多くのお客様にこの特別なサービスをご利用いただいております。今後とも季節ごとの魅力を最大限に引き出し、お客様に忘れられない旅行体験を提供してまいります。

また、お客様にお得な航空券を提供するため、様々なプロモーションを行っております。チャイナエアライン公式サイトや提携旅行社を通じて、季節やキャンペーンに応じた特別価格の航空券をご購入いただけます。これらのプロモーションは、旅行

の計画をよりお得に、そして快適にするための絶好の機会です。公式サイトでは最新のキャンペーン情報を随時更新しており、特に早期購入や特定の路線での割引など、さまざまな特典をご用意しています。旅行社でも同様に、旅行パッケージと組み合わせたお得なプランをご案内しておりますので、お客様のニーズに合った最適なプランをお選びいただけます。ぜひ、様々な機会にチャイナエアラインの特別プロモーションをご利用ください。

今年（二〇二三年）に比べてコロナ回復後の旅行需要が一段落し、特に日本発のアウトバウンドにおいては、円安の影響もあり、旅行者数が減少傾向にあります。このような厳しい市場環境下においても、チャイナエアラインは引き続きお客様に最適なサービスを提供させていただけるよう、努力を重ねてまいります。多様なプロモーションや季節に応じた特別便の運航、そしてお客様のニーズに合わせた柔軟なサービスを展開し、引き続き日本と台湾を結ぶ重要な橋渡し役として貢献してまいります。厳しい状況にあっても、私たちはお客様の信頼に応え、快適で便利な空の旅を提供するために最善を尽くしてまいります。

最後になりましたが、当社チャイナエアラインは、お客様に快適で充実した空の旅を提供するため、多様な商品とサービ

スを展開しております。東京をはじめとする日本各地から台湾への豊富な便数と、季節ごとの特別チャーター便により、観光やビジネスのどちらにも対応した便利な移動手段を提供しております。また、公式サイトや提携旅行社を通じたプロモーションでは、お得な航空券をお求めいただける機会を多数ご用意しております。今後もお客様一人ひとりのニーズに応えるサービスを追求し、より多くの皆様に愛される航空会社であり続けることを目指してまいります。皆様のご利用を心よりお待ちしております。



就任御挨拶

日本台湾親善協会

理事 平 岩 敏 和



本年度の総会において皆様のご承認をいただき、新たに理事となりました平岩敏和と申します。歴史と伝統のある当会の理事となり身の引き締まる思いではありませんが、会の発展と日台友好に向けて

微力ながら努力する所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。

私は、埼玉県所沢市を拠点として家業の建設会社を営んでおりますが、新たなチャレンジとして、六年程前から台北市内で日本料理店も経営しております。この様な私と台湾とのご縁が地元所沢市で日頃から公私に渡り大変お世話になっております並木正芳副会長のお耳にも届き、当会への入会を勧めてください入会致しました。その後、台湾への訪問を始め、日本台湾親善協会の事業に参加をさせていただく中で、私自身、台湾に対する理解を更に深めることができると共に、台湾をより一層身近に感じることができ、入会できて本当に良かったと感謝しております。そして、訪台の際には、懇親会の場として弊社の経営するお店にもお立ち寄りいただき、衛藤会長を始め会員の皆

様にも私の事業を見ていただく機会を得ましたこと、大変嬉しく光栄に感じております。

皆様から、どの様な経緯で台湾に飲食店を出したのか？お店ではどんな料理を出しているのか？とよく質問を受けますので、少しご紹介致します。

私は上述の通り建設会社を経営しておりますが、八年程前からベトナムにも現地法人を設立して建設事業を始めました。現在ではホーチミン、ハノイ、ダナンの三拠点を中心にベトナム全土で建設事業を展開しております。開業後、当然ながらベトナムに出張する機会が増えましたが、ベトナム直行便は値段が高く、夜間フライトも多かったため、試しに台湾の航空会社便を利用したところ、乗り継いでも日中の移動で済み、地理的に時間的ロスも少なく、かつ値段も安かったため気に入りました。以後は台湾の航空会社を利用する様になりました。始めは台湾の空港で乗り継ぐだけでしたが、当時、私の大学時代の親友が台北に駐在していたこともあり、乗り継ぎの際に台北で一〜二泊して親友と会うことが楽しみになり、頻繁に台湾を訪れる様になりました。それまでも、台湾には何度か旅行で訪れたことがありましたが、この様に頻繁に立ち寄る様になったことで、台湾という国に一気に興味を持つ様になりました。

台湾を訪問するにつれ、台湾の人々の生活に触れ、台湾人の方とも話す機会が増え、いつの間にか台湾に行くことが自分の中でのお楽しみになりました。台湾は間違いなく世界一の親日国

であると私は思います。台湾の人々は、日本人と近い考え方も持ち合わせており、日本製品を好み、日本文化もかなり浸透していると感じました。そして食文化についても、台北には寿司を始めミシュランクラスの本格的な日本料理店が多数存在するなど、台湾における日本食の定着度にも目を見張るものがあります。

ある時、台湾の方々には日本食で好きなものを聞いてみると、皆さん声を揃えて、寿司、天ぷら、すき焼き…など、メジャーな和食が挙がりましたが、その中で、かなり多くの方から蟹料理という声が聞こえてきました。北海道で食べた鱧場蟹や毛蟹、北陸で食べた松葉蟹、そして日本の「かに道楽」が大好きだとの声がとても多いことが非常に強く印象に残りました。

そしてそこで気が付きました！

先程、台北には本格的な日本料理店が多数あると申し上げましたが、一方で、何故か台湾の方々にはこれだけ人気があるのに日本の蟹料理の専門店は一軒もありませんでした。

その当時、タイミング良く、弊社として全く新しい分野へのチャレンジを模索していた時期でしたので、それであれば台北で日本の蟹料理店をやってみようと言うことになり、日本蟹料理専門店「月夜岩」をオープン致しました。

お店のメニューは全て鱧場蟹や松葉蟹を使った蟹のコース料理となっておりますが、冷凍物は一切使わず全て活け蟹を使用しております。特にお客様の席にシェフがお邪魔して目の前

で活け蟹を調理するコースが人気となっております。

少しお店の宣伝の様になってしまいましたが、これからも私を通じて台湾と関りを深めつつ、日本台湾親善協会の活動にも積極的に参加してまいりますので皆様どうぞ宜しくお願い致します。

就任御挨拶

日本台湾親善協会

監事 吉原 徹



皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私はこの度、日本台湾親善協会監事に就任いたしました。

長い歴史と伝統のある当協会の役員になれることは大変光栄なことであり、推挙いただきましたことに感謝申し上げます。

私は歯科医師をしております。埼玉県西部の都市で開業し、かれこれ三八年程時が経っております。地域医療ひとすじにたずさわって来ました。

この協会には一〇数年前まだ亜東親善協会の頃、義父である

鈴木慶一、現監事の紹介で入会いたしました。会員としての所属歴だけは長いのですが、仕事の忙しさもあり申し訳ないのですが、あまりイベントに出席したことが無かったのであります。

義父母より、台湾旅行の楽しさは、いつも聞いておりました。しかし、近年世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界的に大変きびしい状況が続いております。台湾訪問の旅行も何度か中止になり、昨年、令和五年に、ひさしぶりに再開されました。そこで義父もまた行くことになり、付き添いを兼ね一緒に台湾訪問団に初めて参加いたしました。とても楽しい経験をさせていただきました。

それがきっかけで、今年は五月の台湾訪問団に私だけ参加し、頼清徳 新総統の就任式典、公式晩餐会、等の一連の行事に出席させていただきました。

今までの人生では、経験することのできない、なかなか得がたい国際交流の体験をすることができて、感動しました。また、台湾の人々のエネルギーで、熱い活気を感じました。

これからは微力ではございますが、日本台湾友好の発展に貢献したいと思っております。今後とも引き続き、ご指導、ご厚情を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

『学生を通じた日台親善』

学校法人日本女子大学 事務局長 岡本 宏一



「台湾に事務所を作って欲しい。」
前任の早稲田大学で当時の白井克彦第一五代総長から特命を受けた時から台湾との関係が深まった。

それまでも歴代の総長と台湾の早稲田大学校友会総会に参加し、卒業生の高玉樹台北市長らとも懇談したことがあった。二〇〇四年に英語で学ぶ国際教養学部を開設してから台湾の高校生や親御さんから進学の問い合わせがたくさん台湾校友会に来るようになったため、白井総長に事務所開設の懇願があったと聞く。

早稲田大学への中国、台湾からの留学生は清朝の時代から在籍していた。一九〇五年に清国留学生部が設置されてから辛亥革命の一九一一年までの間に約二千名が学び、卒業生の中から中国建国に貢献した者がいたことから中国では早稲田大学の名前が知れ渡るに至った。特に著名な卒業生は李大釗で、中国共産党の成立に貢献し、北京大学で教鞭をとったことから、北京大学構内に銅像が建立されている。

二〇一四年に公開された台湾映画「KANO」では一九三一年に嘉義農林学校が初めて台湾代表として出場した甲子園（全国中等学校野球優勝大会）で準優勝して一大旋風を巻き起こし

たことが題材となっているが、準優勝投手の呉明捷選手は卒業後早稲田大学に進学し野球部に入部した。東京六大学野球では強打者として知られ、長嶋茂雄さんに破られるまでホームラン記録を持っていた。

二〇〇八年、私は早稲田大学台北事務所設立担当者となり、同年七月に台北市南京東路に開設することができた。台湾財閥の一つである新光グループの呉東進董事長が早稲田大学卒業生だった関係もあり、新光グループ旧本社ビルの一角を格安で借りした。

最初の仕事は、台湾で学生募集を始めることを発信すること。その為に台湾人卒業生や駐在員卒業生、協定大学や進学校に事務所開設式の招待状を送って、参加者同士で交流して活動の後押しをお願いした。二〇〇名を超える招待客に参加いただいたのは大きな喜びだった。

事務所を開設しても閑古鳥が鳴きはしないかと心配したが、稀有に終わった。毎日五、六組の進学相談者が訪れ、更に卒業生も不便はないかと顔を見せてくれる。また、校友会と大学の相談も頼まれ、所長の私と台湾人スタッフ一名だけでは手が足りない時もあった。特に進学相談会を開催する時は日本から教職員が応援に来るので、通訳として一〇名程、卒業生や帰省中の学生にアルバイトとして働いてもらった。

皆、日本と早稲田大学の良さを一生懸命説明し、高校生や親

御さんもこんなことが学べて将来どんな活躍が出来るか熱心に聞く。これはまさに日台親善に不可欠な相互理解が生まれる一過程だと思う。卒業後も日本に残る者もいれば、台湾に戻って就職する者もいる。男子は兵役があるので、その相談も多く受けた。

私が現在勤務する日本女子大学でも戦前は台湾から多くの学生が学び、台北市には校友会組織の桜楓会支部がある。しかし最近では留学生が減少したため、台湾に協定大学を作り交換留学生の受け入れや派遣を開始した。二〇二三年に開設した国際文化学部では新入生全員が夏季休暇中に海外へ行くことを義務付けているため、台中市の静宜大学で三週間研修するプログラムを作っている。研修の最後には台湾の経済団体三三会のお世話で、台湾企業を訪問する。三三会には台湾トップ企業七〇数社に加えて日本の代表的な企業の現地法人も維持会員として加盟し、毎月第三水曜日に例会を開いて研鑽と交流に努めている。

学生たちは台湾の大学で学び、台湾人学生と共に過ごしてお互いの思いや考えをぶつけ合い、大きく成長している。ゆくゆくは台湾企業でのインターンシップも始めるつもりだ。

早稲田大学でも日本女子大学でも、学生が多感な若いうちから日台親善の理解者になって台湾の学生と交流することは日台関係の将来に不可欠だ。今後も学生を通じた日台親善を学生の意志で続けられるよう後押ししていきたいと思う。

事務局だより

令和六年四月～九月

新入会員

神林正典 庄司太郎 細谷孝行

【お詫び】

事務所のミスです大変誠に申し訳ございません
明石散人先生の季刊亜東夏号名刺広告掲載漏れ
されましたので改めて季刊亜東秋号に掲載させて
頂くことに致します

今後このようなことがないよう、より再三の注
意業務をおこないますので何とぞよろしくお願
いします。

明石散人

中央区築地二一五一一〇一〇八
電話〇三(三五四一)八八四八
携帯〇九〇(八八七二)四七七一



原稿募集

皆様の投稿をお待ちしております。台湾に関するものばかりでなく、
身の回りのことなど、ご自由にお寄せ下さい。
紙媒体でもEメールでも事務所宛てにお送りいただければ幸いです。

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和六年 秋季号 (No.91)
発行日 : 令和6年11月15日
発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会
発行人 : 衛藤征士郎
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階
Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770
H P : atousinzen@nifty.com
印刷 : 株式会社サンユ一



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



Twitter



Instagram